

マルヤス岡崎蹴球新聞

発行人
スタヂアムヲ
芸人
イケザえもん
@ikezaemon01



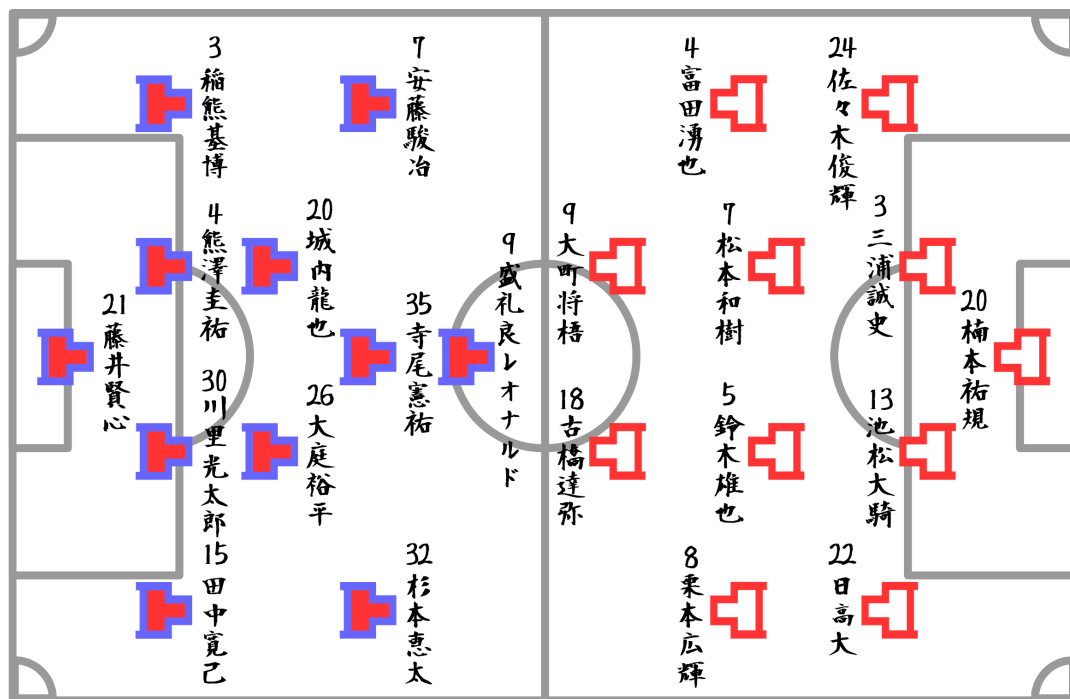
赤鬼ダービーを制するのは

第19回JFL セカンドステージ第10節
FCマルヤス岡崎 対 Honda FC



Honda FC

【本拠地】遠江国 浜松市【監督】井幡 博康
【2nd-S】勝ち点22 1位【年間】勝ち点58 1位



蹴球合戦 予想布陣図 (FCマルヤス岡崎蔵)

[会場]豊田市運動公園陸上競技場 [ボールパーソン]大同高校

【試合運営へのご協力を賜り誠にありがとうございます】

Honda FC

チーム紹介

百尺
竿頭
進一歩

昨年のJFLチャンピオンシップを制したHonda FC。今シーズンは更に一歩進み、ここまでわずかに2敗と圧倒的な成績を残している。余談だが、イケザえもんが今年送った年賀状は、Honda FCのチームマスコット「パッサーロ」と撮った写真を印刷したものだ。その節はお世話になりました。

大死一番とは「一度死んだつもりになって奮起すること。死ぬ覚悟で何かをしてみること」を意味する。また、絶後再蘇とは「死後、新たな自分に生まれ変わる」という意味だ。

マルヤスは前節で連勝ストップ。三重を相手に好勝負を演じたが、一瞬の隙を突かれてしまった。しかし、チームは確実に上向いている。北村監督の指揮で生まれ変わったマルヤス。降格圏との瀬戸際にある今、まさに大死一番の気迫が必要だ。

対するHondaは完全優勝へ向けひた走る。ここ5戦無敗の成績もさることながら、他チームに倍以上の差をつける驚異的な得点差も目を引く。過去のマルヤスに対しては7戦全勝。今日も勝利だけを見据える。

普通に考えれば、マルヤスは苦戦必至と思われる。しかし、過去は過去だ。禅の言葉を借りれば、勝負は前後際断。過去も未来もなく、今だけがある。今日この一瞬に集中し、今を戦ってこそ道は拓ける。

大死一番絶後再蘇
— 今節の展望 —

願離穢土
欣求浄土

井伊家と徳川家康

井

Honda FCのホームスタジアム・都田サッカー場。その目と鼻の先には、井伊家の菩提寺である龍潭寺(りようたんじ)がある。井伊家と龍潭寺といえば、今年の大河ドラマ「おんな城主直虎」だ。物語も終盤に差し掛かる今、改めて井伊家と徳川家のつながりを紹介しよう。

ドラマの主人公は井伊直虎。直虎は、井伊家18代当主・直盛の娘である。19代当主・直親が今川家に殺害されると、井伊家はお家断絶の危機に陥る。直親には虎松という息子がいたが、あまりにも幼く当主には不適。虎松はその身を案じられ、三河の鳳来寺へと送られる。

その当時、龍潭寺で出家し「次郎法師」と名乗っていた直虎。井伊家を窮地から救うべく、還俗(げんぞく)し当主となった。乱世の荒波井伊家を襲い続けたが、徳川家康の助力もあり難局を乗り越える。

やがて迎えた直親の十三回忌。ここに虎松が出席すると、井伊家では「虎松を徳川家に仕官させよう」という声が高まる。目論見どおり虎松は徳川の家臣となり、家康から「万千代」という名を授かった。高天神城の戦いなどで功績を上げたのち、万千代は元服。名を「直政」と改めると、天正壬午の乱をきっかけに赤備えを率いる。かくして赤備えの大將となった直政は、厳格な性格から「井伊の赤鬼」と呼ばれた。直政は外様でありながら家康に重用され、その後の井伊家は彦根藩主として江戸幕府を支えた。

浜松の井伊と岡崎の徳川。それぞれの縁が結実したのが井伊直政だ。浜松のHonda FC、岡崎のFCマルヤス岡崎ともにチームカラーは赤。今日の試合は「赤鬼ダービー」と言っても差し支えないだろう。

本日のイベント

十三時
試合開始

【天才こどもギタリスト
MIKOTO ライブ】

刻 十二時四〇分
於 ピッチサイド
☆将来のスターを見逃すな

【TOKAITEIoh:
ダブルダッチ披露】

刻 ハーフタイム
於 ピッチサイド
☆ダブルダッチとは
ロープ2本を使う縄跳び

【選手とあそぼう企画
「ダブルダッチを
やってみよう」】

刻 十二時〜十二時五〇分
於 場外イベントブース

【スタジアムグルメ】

於 入場口付近
☆運営委員が牛串を
楽しみにしております

【オリジナル缶バッジ
ガチャガチャ】

於 入場口付近
グッズショップ
☆新しいデザインの
缶バッジも登場!

【監督・マンオブザマッチ
インタビュー】

刻 試合終了後
於 ピッチサイド
☆マルヤス勝利の場合のみ

【選手・スタッフによる
お見送り】
刻 試合終了 五分後から
十分間
於 入場口付近

次回ホームゲーム 10月22日 日曜日

対 栃木ウーヴァFC 於

15時 試合開始
名古屋市港サッカー場

公式サイト



公式ブログ



facebook



?

